



認知症家族教室



平成28年7月16日、第31回 認知症家族教室を開催し、9名のご家族にご参加いただきました。「『終末期』は、どの方にも必ず訪れるものですが、認知症の方の終末期については、今まであまりお話しをしていなかったので、今回は、当院精神科認知症サポート医の井上と、東6階認知症治療病棟豊浦看護師から「認知症の終末期」と「認知症の方の日常の健康管理」についてお伝えしました。

はじめに、井上医師から認知症の症状の進行と、終末期の身体状態、日常生活動作能力、精神状態について、「一般的に終末期には、すべての生活活動において介助が必要な状態となり、身体合併症が増え精神症状については軽減される傾向にある」、また「誰もが迎える最期の時、後悔のないよう、普段からご家族や親族と延命治療を選択するかどうかについても相談しておく必要がある。」とお話をさせていただきました。

次に、豊浦看護師からは、「認知症が進行すると健康を維持するための予備能力が低下し、誤嚥性肺炎や、便秘、下痢などの病気にかかりやすく、さらに、病気になっても痛みや違和感を自ら訴えることが難しいため、身体状態の悪化から精神症状が見られることがある」とお伝えしました。

今までも、講義後に個別で相談があれば対応していましたが、今回からは改めて家族教室の時間を延長し相談の機会を設けることとなりました。

参加者からは、講義に加えより具体的な相談が可能になり、家族教室への参加を続けたいとの感想をいただくことができました。